

平成 27 年度第 2 回北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会会議記録要旨

1 開催日時

平成 27 年 10 月 20 日（火）13：30～15：00

2 開催場所

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地 かでる 2・7（8 階）

北海道立生涯学習推進センター創作実習室

3 審議等の内容

(1) 議事

- ア 道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への接続方法について
- イ サーバー更新に伴う新ホームページについて

4 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会委員（部会長、以下委員五十音順）
三上部会長、宇山委員、喜多委員、楠委員、小賀委員、後藤委員、今委員
- 北海道立生涯学習推進センター職員（運営協議会事務局）
阿部所長、柴田主幹、柴野主査、櫻井主査、久保主査、石手洗主任、吉光寺社会教育主事

5 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の掲載 ○委員 ●事務局）

(1) 議事

① 道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への接続方法について

- （ジュニア学生と一般〈高校生以上〉の単位取得の違いや称号取得単位数など、前回の説明内容を振り返り、単位移行によるメリットやデメリット、ジュニア学生から高校生以上の一般への接続に向けた単位移行について、資料 1 に基づき説明。）
- 今の説明に対して、御質問や御意見をお願いします。
- 実際に受講しているジュニアの小中学生に、移行の仕方についてのアンケートなどはしていないのですか。
- 今年度、各道立青少年体験活動支援施設での広報活動を行っています。その中で、いろいろな御意見を保護者も含めていただいております。約半数の方から単位をそのまま一般のほうへ移行していただきたいという回答を得ております。
- 今やっているお子さんからすれば、おそらく(2)がうれしいわけですね。前回議論になったのは、その人たちと大人になってから始める人とのバランスを考えた方が良いということ。全く移行しないのは、やりすぎで、かといって全部移行するのはどうだろうということ、一

部を移行するという今回の案を作っていただいています。2番の接続方法が事務局からの提案であり、(3)に基づいて2番の接続方法ができているということですね。

- 「高校生との学習機会が増える」というのは、どのようなメリットなのでしょう。
- これまでの受講生は高齢者が多く、ジュニアからつなぐことによって高校生の受講者も増えることが期待できます。また、高校生が一般の方々とともに学習できる機会が増えるものと考えております。
- 移行しない場合は、ジュニアから継続して学習する人の数が少なくなるので、一般の人にとっては高校生と一緒に学習する機会を得られる可能性が相対的に減る、という意味ですね。移行する場合はジュニア学生だった人が継続することになり、ジュニアから移行することで、高校生の受講が増えるということですね。
- 多分、このメリット・デメリットは相対的なものだと思うのですが、すべて移行する場合に、ジュニアからの学生に一般の学生からは不公平感を感じるというデメリットがある。一部を移行する形にすると、そのデメリットは軽減されるだろう。しかし、それは程度の問題で、どれくらい移行するかによっては不公平感を感じることもある。

一部を一般の単位に移行するという事に問題がなさそうだとすることであれば、まず、一部移行するという事で良さそうかどうかというところを確認します。2番の点線の中のような移行の方法で良いかという検討に入ろうと思うのですが…。

事務局からの報告では、移行がゼロということはないという報告でしたが、手元にある前回の議事録を見ると「移行単位をゼロにするという議論はなかった」ということを一応確認した上で、「その辺りも含めて、第2回の部会で再度検討しましょう」ということになっています。そこで、改めて確認させていただきますが、「一部移行する」という方針自体はよろしいですね。
- では、一部移行のやり方ですが、ジュニアからの接続に不公平感を感じるような移行をしてしまうと問題ですが、ジュニアからやってきた人にとってジュニア時代に蓄積されたことが生かされ、一般の学士の称号が取りやすかったり、専門コースの学習に積極的に取り組むことを後押しできたりするメリットを確保するというバランスの問題です。事務局提案が、そういうバランスが取れている方式なのかということです。

ジュニアで取った単位の移行が5割というのがどうかということと、一般のコースにいくと「必修」の単位と「専門」の単位と「選択」の単位となっていて、その中の「選択」の単位のみ充当するという事。この2つが肝だと思えます。

充当する単位の割合が5割がいいのか、3割がいいのか、7割がいいのか。充当するコースが「選択コース」をはみ出して「専門コース」まで入れるのか。その辺りが、今我々が議論すべきポイントなのだろうと思えます。
- 150単位取った子は、必然的に「選択コース」は取得しなくてもよいということなのでしょう。
- 一般の場合の選択単位は、「能力開発コース」「健康スポーツコース」など、5つのコースがあります。その中から選んで単位を取得します。ジュニアの場合、子供はまとめていろいろなことを勉強する時期ですのでコースは分けず、1つのコースとしています。そこで、選択コースの単位として充当し、その分、専門的なコースはしっかりと学ばせたいと考えています。

- ある意味では理にかなっているわけですね。子供のときにたくさん単位を取って「選択」の単位数がそれで埋まる人は、高校生になって新たに単位を数える際に、「選択」部分はジュニアコースで取ったという形になるわけで、その意味では辻褃が合います。
- 5割を移行単位としたのは、なぜですか。
- ジュニアコースの子どもたちが、平均すると100単位程度取得するだろうという想定に基づいて考えました。100単位を一つの基準として考えると、5割の50単位が34単位に充当されて、16単位が切り捨てになる計算となります。16単位程度の切り捨てなら、継続する意欲がなくなることもないと考えます。
- 切り捨てが3割だと全部移行するのと同じになります。逆に7割だと切り捨て単位が大きくなりすぎます。また、単位移行の簡素化もあり、5割だとお子さん自身が計算しやすいということも考慮して提案させていただいております。
- 今のバランス感をどう判断するかですが、頑張った分の約6割強は認めてもらえるが、3割強くらいは切り捨てられる。一般コースから新たに始める人が、「それくらいは認めてもいいだろう」と感じられるか。また、小中学生からやってきた人にとっても、「自分が頑張ってきたことが認められている」と感じられるようになっていくのかがポイントですね。そして、実際の計算のしやすさを加味してどう判断するかです。
- 単位移行の話が、単なる数合わせだと思われては、せっかくのジュニアのコースの趣旨やそれまでの努力の成果を認めるという移行措置の趣旨が生かされないと思います。その点を注意して欲しいと考えます。また、ジュニアの称号が持つ価値を注意して扱う必要があると聞かせてもらいました。「ジュニアの称号を持つこと」そのことが、その後の励みにもなるような説明ができるようにしておく必要があると思います。認められない単位が出て、それが称号の部分で納得してもらえないのではないかと思います。提案の5割という線が整合性のとれるところなのかなと思って聞かせてもらいました。大学の編入学の際の単位認定も、そのミッションによって認められるものとそうでないものがあります。子どもの発達とともに学んでほしい事柄も変わってくることから、5割というのは現実的な取り扱いといえると思います。
- 単なる「数合わせ」とならないために、何か具体的にできることはありますか。
- 例えば、移行の考え方を学長や所長から、このような考え方で移行していきますよというメッセージとして示せば、本人も保護者も受け止めてくれると思います。ただ、数字的なことばかり書くと無味乾燥すぎてしまう。せっかくなので、メッセージを作ってほしいと思います。
- 原案どおりでよろしいのかなと思いました。高校は74単位で卒業です。74単位取れば卒業できるのですが、多くの学校では90単位近くまで勉強します。その他定時制も含めて今、学校外の学習の単位認定というのがあり、それが36単位まで認められています。相当弾力的になっています。「道民カレッジ」というのは、「卒業」が目的なのか「学ぶこと」が目的なのか、「単位」にこだわってしまうと「卒業」が目的の発想になってしまう。デメリットとして「差が生じる」とか「不公平感」とか「学習意欲の低下」等と示されているが、こういう表現でいいのかなと思います。根本的な目的の部分なのだろうという気がします。ジュニアコースでやっている勉強と一般コースでやっている勉強の質や量が異なるのであれば、単に単位数ではなくて、2分の1、もしくは3分の1の部分を履修しましたという理解でいいのではないのでしょうか。例えば全部認めるとなると、中学校で勉強してきたことを高校の単位として全部認め

るということになる。内容で表現できるものはないのかと思いました。私は原案はいいが説明はいかがなものかと思うのです。簡素化して分かりやすいというのもよいですが、中身について説明する必要がある。また、(2)の「高等教育機関」は「高校生」のミスプリでしょうか。高校生は「中等教育機関後期」です。

- 事務局としましては、高校生や大学生も含め広くターゲットに想定しています。
- 大学での連携講座を含め、各大学で高校生向けに行っている講座も指しています。
- どの大学でどのような高校生向けの講座をやっているかわからない。できればセンターのほうで周知していただきたいと思います。
- 1点目に関して、事務局としてはいかがですか。
- 御指摘のとおり、学習の質や中身の部分ですので、説明の文言を変えていきたいと思います。
- 前回の会議でも、例えば「1泊2日日程に参加するとジュニアの2単位になるわけだが、それは具体的にどんな学習内容なのか」といった確認もあり、それに対する説明も事務局から頂いています。単なる数合わせの議論ではいけないというのは、おっしゃる通りで、実際そういう意識で議論をしてきていると思います。その議論の内容も踏まえて、こうした移行方式を選択した背景、考え方が伝わるようにしていく必要があるかと思っています。
- 3-(3)の接続方法に係る周知に関わってくるところだと思います。メッセージによる周知、その内容については、単位だけでなく学んだ成果をきちんと評価していますというような、メッセージの中身で周知を図っていきたいと思います。
- 「接続方法にかかる周知」という表現がドライな感じがするということだと思いますので、付け加えていただければ、表現はお任せしますが、「接続方法及びその背景にある考え方の周知」等とすることで、教育的な意味が出てくると思いました。
- 以上のような修正を含めて、基本的に事務局で作成した接続方法で進めていただくことで、この会としての議論をまとめさせていただくことでよろしいでしょうか。
- そのメッセージというのは、紙に残るのですか。それとも講座の開会式のような場で口頭で話されるのでしょうか。
- 基本的には道民カレッジのホームページで周知をさせていただきます。

②サーバー更新に伴う新ホームページについて

- (概要やスケジュールについて、資料2とスクリーンへの実写に基づき説明。)
- どのレベルの話からでも結構です。感想や意見を出していただくという時間にしたいと思います。
- やはり、見やすくなってほしいと思います。「道民カレッジ」の点々の部分が、本なのか蝶なのか見にくい。かわいらしくていいのですが、大きくしないと見にくいものとなっています。
- イラスト風のデザインを業者から提示していただいたものです。
- 当初のホームページは、たくさんの情報を伝えたいという気持ちは分かるのですが、どこを選んだらいいかわからないくらい情報がありすぎたので、まとまっていたほうが良いと思います。資料にある他県のもののように見せ方がすっきりしていたほうが見つけやすいのではないのでしょうか。
- 例えば秋田県は入りやすいかなと思っておりました。愛媛県はフェイスブックもやっている

ようです。センターにはごさいませんが、後々、体制が整いましたら、このようなことをやっていくことも必要なのかなと考えています。

- 探したいものが探せなくて時間がかかると、諦めてしまいそうなので、すっきりさせてほしいです。
- 色使いのことで、探している情報に辿り着きやすいデザイン、いろいろ技術があるのですが、そこを優先していただきたいということですね。
- 北海道のホームページは字が細かく書いてあってよく読まないといけない。分類も秋田みたいな感じで、トップ画面の上半分でスクロールしなくても区分けしてあってわかることと、字だけではなくタイルをクリックすれば移れるようにしてほしい。
- 今、スマートフォンやタブレットで操作する人が多いので、操作しやすいようにしたいと思います。
- 秋田のような組織の括りではなくジャンルで分けてあるのと、三重県とか愛媛県のように新しいものを上に持ってくるやり方と、パターンが2種類くらいありそうですね。
- 子育て支援の部分に飛ぶにはどうしたらいいのか、ページ下までスクロールしなければならなく見つけられなかったのも、もったいない。大事なものは、ジャンル分けの前半にあったほうがいいのかと思う。イベント情報も、前のほうにすぐ分かるようにあったほうがいいのか。
- 情報としてはバナーのような形でリンク先にどんどん誘導していくほうがいいのかということですね。
- ページ上の部分は値打ちが高いということですね。そこを同じもので独占しておくというのはいらない。
- 作った当初は、上の4つは道立のセンターの機関に関わっている部分、一番左がセンターの中身の話、次にセンター附属の視聴覚センター、そして以前センターが主管となり現在は違うグループが担当している道立の体験活動・ボランティア活動支援センターがありました。そして、北海道の施策の柱の道民カレッジという、一番大切な4つを当時は選択したという経緯があり、皆さんがおっしゃったように、時代的には今、一番旬のものを載せたほうがよいと思っています。
- 旬ということなど、編成の仕方としては、提供者側の視点となります。学習者が知りたい情報は、もしかしたらセンターにあるかもしれないし、道民カレッジにあるかもしれない。だから、こういうカテゴリにしたほうがいいのかということでしょうか。
- 2ページ目以降の、道民カレッジや子育て支援のページなどは、格段に見やすくなって素晴らしいと思いました。トップページがもっと探しやすい形になればいいかなと思います。
- 「生涯学習ほっかいどう」のページと「道民カレッジ」のページを同じ軸で考えてしまうと話が難しくなってしまいます。サンプルで出ているのは、「生涯学習ほっかいどう」のトップにあるものと同じようなもの。北海道の学習のポータルサイトみたいなものになっているのが、この「生涯学習ほっかいどう」というページだと思います。ですから、その中の一部の講座として「道民カレッジ」も含まれます。ここを切り口に、「子育て」のことも知りたい、「講座」のことも知りたい、「健康・スポーツ・趣味」などいろいろなことが知りたい。その「健康」「スポーツ」の中の1個に「道民カレッジ」が入るかもしれないし、違うものが入るかもしれない。だから、まずこのポータルサイトの中身は、「道民カレッジ」も含めて、いろいろな情

報の入口になるので、入口を整理して分かりやすくして簡素化していくことが望ましく、始まった当初は、上の4つがそういうものだったのだろうと思います。今、いろいろな情報がたくさん付いてきたので、切り口をまた変えて分かりやすくすればいいのかなと思います。

ですから、「道民カレッジ」のページに行ったときは、「講座」ということに特化した作りになります。「子育て」は「子育て」に特化している。「道民カレッジ」の中には、「スポーツ」とか「芸術」とか、どんな講座があるかをもっとダイレクトに出していかなければいけないのかなと思います。その前に「道民カレッジ」についての認知も確かに必要なので、伝えていくのと同時に、ピックアップとかジャンルボタンなども付けていくことで、さらにページ中の講座の様子トップページから見えてくるのかなと思いました。左側のトップページの切り口から「道民カレッジ」を見る人は、学びたい人か、連携講座を受けたい人ということになるとと思います。講座を申請したい人よりも、学びたい人が学びたい講座の中身をより見やすくなるのかなと思いました。

- ご指摘いただいた1点目のお話、複数のサイト間の階層関係を意識するという点は非常に大事だと思います。その視点から、参考資料として出していただいた他県のものを見直すと、違いがよく分かります。秋田県のは生涯学習のポータルサイトで、今検討している北海道のサイトに直接対応する性格のものですが、三重県はセンターのサイトであり、若干位置づけが異なります。それでも内容を見ると、多少ポータルを兼ねているような面もあるように感じます。

都道府県ごとにその辺の位置付けは違うのだろうと思います。では北海道ではどうするのか。各施設や講座、事業のサイトと、ポータルサイトとの関係をどのように設計するのかを意識する必要がありますね。

- 個人的には、三重県のが好きです。パッと分かる。とてもインパクトがあって、次に行きたくなる。今開いているのは、とても辛い。まず、フォントが小さい。ユニバーサルデザインから考えると、情報を詰め込みすぎで、辛いと思います。バナーサイズを考えると、必要なものをいくつか出して選んでもらう。生涯学習センターとしては、どこにフォーカスを当てているか。全部を満足させようと思うとこうなってしまうと思います。多分全部が満足していない。利用の多い部分にフォーカスを当てようという発想があってもよく、利用者がどうなのかを知ることが大事なところだと思います。文字が多いと読まないですね。せっかくりニューアルするのであれば、もっと使いやすくしたらいいのではないかなと思いました。
- センターのホームページの完成度が高いことが大切なことではないと思います。センターのホームページは、センターの扉であり、玄関であると考えます。北海道の生涯学習を推進するために、北海道の皆さんがここに来て、いろんな組織であったり、仕組みであったり制度を知っていくための扉を開ける玄関が、今回のホームページの改定と考えます。そのためにも、できるだけシンプルにしたほうがよいと思います。どういう人たちが利用するのか、誰が使うのかよく分からないところがあるので、できるだけシンプルにしたほうが良いと思います。また、ホームページの利用者が何を求めているのかという点から改定作業を進めていくことになるとと思います。それから、ポータルサイトを作るとき、広報誌なのかガイドブックなのかということが一つのキーになるようです。新聞のように生ものの新着情報をたくさん見られるページなのか、ガイドブックのようにある程度定期的に提供しているものがあって、そこから新し

いものに入っていこうとするのか。報告書や過去のアーカイブスを見たり、ガイドブックのように施設の利用について分かっていくような形にしたりするなど、利用者のニーズから整理をされると分かりやすくなると思います。個人的には、ここにくれば、「生涯学習推進センターのことを知りたければ、ここが入口になる」、「道民カレッジのことを知りたければ、ここが入口になる」、「過去のいろんな情報が見たければ、ここが入口になる」というポータル機能を持ったホームページにさせていただくと、使いやすく、また、ターゲットが分かれてきて自ずと整理されてくると思います。表現の仕方、デザインとしては、いわゆるパネルは3枚。できるだけ入口はシンプルにという整理をされるといいかと思います。

- 今いただいた御意見を生かしながら、デザイン案が次の専門部会ではお示しできるかと思っております。
- 限られた時間でしたが、いろいろな観点から御意見をいただきましたので、それを参考にさせていただいて、これからのデザインに生かしていただけたらと思います。

今日の議題は以上ということになりますが、何か委員さんからありますか。なければ、本日の議事を終了いたします。